

2017年4月実績概要（メモ）

（2017. 5. 25）

春の定修シーズン入りの中、実施プラントの差も有り、生産は多くの品目で前年を上回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 549,800トン

前月比 ▲ 3.2% (▲18,000トン)
前年同月比 + 3.7% (+19,500トン)

生産増減に係る諸要因	＜前月比＞	＜前年同月比＞
日数増減	▲ 3.4%	-
定修要因等	-	+ 3.8%
能力増減	-	+ 0.2%
稼働率変動	+ 0.2%	▲ 0.3%
生産増減率	▲ 3.2%	+ 3.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月96.1%→当月96.3%←前年同月96.5%
定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主として日数の減少からLD、HD、PP、PS、MMAモノマー、BR、ベンゼン、キシレンなどの11品目がマイナス。SM、AN、SBR、トルエンなどの6品目は主に定修規模差からプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因からLD、HD、SM、塩ビモノマー、AN、SBRなどの12品目がプラス。PS、EG、キシレンなどの5品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、定修規模差や稼働率変動があるものの日数減による影響が大きく、当月はLD、HD、PP、PSの4樹脂揃ってマイナスとなった。

前年比では、定修系列数の減少や稼働率要因からLD、HDではプラス。PP、PSは定修規模差等から若干のマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、主に営業日数の減少影響からLD、PP、PSでマイナス。HDのみが僅かにプラスとなった。

前年比では、定修系列数の減少に伴い供給面での制約もある程度縮小されたこと、加えて輸入品が前年を下回る水準に留まっており、LD、HD、PPでは主要分野の出荷が総じて増加しプラスとなった。PSは前年の出荷水準が幾分高めであったこともあり、当月は二桁台のマイナスに転じたこととなった。

ハ) 輸出

引き続き国内出荷が堅調に推移していることから前月比ではLD、HD、PP、PSともにマイナスとなった。前年比でもLD、PP、PSでは大幅なマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PPで増加し、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対して、LDは上昇、PSは横ばい、HD、PPは低下した。在庫水準としては、LD、HDではやや高め、PP、PSはほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		3月末	4月末
LD	+ 3,200	2.9	3.0
HD	+ 200	2.9	2.8
PP	+ 5,200	2.5	2.4
PS	▲ 5,100	1.4	1.4

以上